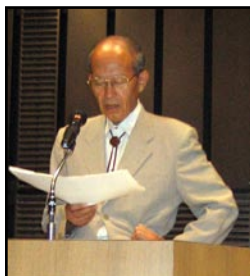


News! the 世界遺産

内海恒雄さん講演「古都逗子・古都鎌倉の世界遺産登録」 逗子市内の候補遺産とまちづくりへの理解を深める

逗子文化プラザさざなみホールにて
右：内海恒雄さん



8月26日(日)、逗子文化プラザさざなみホールで、逗子鎌倉の中世遺産を考える会主催の講演会が、内海恒雄さん(同会副代表・推進協議会理事兼広報部会長)を講師として開催されました。以下はその要旨です。

日本政府は、ユネスコの世界遺産の文化遺産の暫定目録に、『古都鎌倉の寺院・神社ほか』を提出していますが、この「古都鎌倉」というのは、鎌倉時代の範囲でいえば、『吾妻鏡』の記述により、東は六浦(横浜市金沢区)、南は小坪(逗子市)、西は片瀬川(藤沢市)、北は山内辺が境で、鎌倉の周囲で行われた“七瀬の祓”には田越川(逗子市)や森戸(葉山町)が入っており、古代(鎌倉郡沼浜郷=逗子葉山辺)から中世も、逗子と鎌倉は一体とみなされていたようです。

《古都保存法》によれば、現在古都と呼べるのは、奈良市と京都市以外には、鎌倉市と逗子市(平成12年適用)

だけです。から、「古都鎌倉」と同じように「古都逗子」と呼ぶべきなのです。

現在、「古都鎌倉」の世界遺産候補地と考えられている「名越切通」は核心部分が逗子市にありますが、その中心に家が建ち、周辺の宅造も進みつつあります。「和賀江嶋」も逗子市に含まれる部分がありますが、これらの周辺のバッファゾーンも含めて、鎌倉市だけでなく逗子市の部分も守られなくては、世界遺産登録は実現しません。「古都鎌倉」の世界遺産登録というのは、鎌倉と逗子の共通の課題なのです。逗子市にも鎌倉市同様の《古都保存法》の拡大や特別緑地の保全等を早急に図る必要があります。

このほかにも逗子の歴史遺産には、鎌倉の精神的な拠り所となるものが多く、神武寺・岩殿寺・伝源義朝沼浜亭・小坪坂(口)・飯島・三浦胤義遺孤の碑・田越河原・六代御前の墓・法性寺・住吉城・延命寺等について触れましたが、これらを生かした歴史公園や景観を守るまちづくりを進めるのが急務です。

幸い景観法に基づく景観条例は、鎌倉市も逗子市も市民の力により施行できる状況にあります。《古都保存法》のめざす「歴史的風土を守り、次の世代へ」というのは、「古都逗子」も「古都鎌倉」も同じです。世界遺産登録は、歴史遺産を生かしたまちづくりの出発点に他なりません。

～登録推進協議会 参加団体アンケートから～ 世界遺産に関するイベントや勉強会、続々開催！

推進協議会では、登録に向けての協議参加団体の活動の現状を把握して、世界遺産の考えが市民の間にどこまで浸透しているのかを知り、今後の活動に生かしていこうとアンケート調査を実施しました。70団体中45の団体、学校等から回答が寄せられ、世界遺産登録への市民の関心の高まりを物語ってくれました。

回答では、45団体中36団体が何らかの活動を「実施している」、12団体が「検討している」、8団体が「今後検討したい」、「その他」は4団体(重複して回答している団体もあります)で、世界遺産に向けての理念が広がりを示しています。

鎌倉市観光協会では恒例の鎌倉まつりパレードで、世界遺産登録の横断幕などを披露しました。江ノ島電鉄では車内の中吊広告や窓上ポスターの掲示等、全面協力で

応援しています。県立高校では世界遺産候補地での草刈り、清掃等ボランティア活動や候補遺産の勉強等を継続的に実施しています。またNPO法人かまくら緑の会は、「若宮大路グリーン・クリーン運動」として樹木点検・街路整備などに取り組んでいます。

さらに、世界遺産登録推進に向けての中学生作文コンクールの実施(鎌倉市青少年指導員連絡協議会)、鎌倉の旧町名復活運動(鎌倉ペンクラブ)等、意欲的な検討課題も寄せられました。

実施されている活動については、「武家の古都・鎌倉」ニュース等で具体的に紹介していきます。推進協議会では、アンケートをきっかけに広く市民全体に世界遺産登録推進活動の理念が広がってほしいと願っています。